

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
知財戦略マネジメント論 Strategic Intellectual Property Management		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
技術戦略経営				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスイノベーション論				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
長江 庸泰	本館2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
知的財産とは、人が考え出した発明やアイデア、デザイン、音楽、小説など「かたちのない財産」のことであり、これらは「知的財産権」という権利として法的に保護されている。本授業は、この“知財”をキーワードに最新のビジネス・スキルの修得を目標とし、技術・制度・市場のグローバル化問題に対し、知財戦略をマネジメントの立場から捉え、①「国際競争力の強化」、②「国際市場展開の強化」、③「オープン・イノベーション下でのリーダーシップ」の3点から学習する。				
授業の到達目標				
①「知財の意味と歴史」を理解することができるようにする。 ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」を理解することができるようにする。 ③「知財戦略」を理解することができるようにする。 ④「知財の情報開示と証券化」を理解することができるようにする。 ⑤「知財とグローバル戦略」を理解することができるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、“知財戦略マネジメント”に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果				
①「知財の意味と歴史」を理解し、第三者に説明することができる。 ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」を理解し、第三者に説明することができる。 ③「知財戦略」を理解し、第三者に説明することができる。 ④「知財の情報開示と証券化」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑤「知財とグローバル戦略」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法が身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	知財の意味を考える①(創造戦略/権利化戦略/活用戦略/管理戦略/インフラ戦略)			
第3回目	知財の意味を考える②(知財活用事例:ヘルシア緑茶 versus コカ・コーラ、Appleとサムスン電子のスマホ訴訟合戦)			
第4回目	知財の歴史			
第5回目	技術開発の保護:社内規定の整備→職務発明規定と営業秘密管理規定			
第6回目	工業デザイン・営業標識の保護:商標権侵害←警告書への対応			

第7回目	創作的な表現の保護:著作権と特許権の違い		
第8回目	知財の国際的保護:属地主義を原則に条約により国際調和をはかる		
第9回目	知財戦略:デファクトスタンダード(de facto standard);市場における競争や広く採用された「結果として事実上標準化した基準」←最強の参入障壁		
第10回目	知財の情報開示:知財管理の一般的業務構成		
第11回目	知財の証券化:知財信託 管理型・資金調達型		
第12回目	知財人材の育成:知財スキル標準→世界初、知的財産パーソン育成のための“指標”		
第13回目	知財立国とグローバル戦略		
第14回目	知財スキルと標準化:グローバル戦略のための人材マネジメント		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の3点から評価する:①ノートを取り、創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
レポート		30%	以下の3点から評価する:①創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③課題の本質を理解し、まとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		40%	グループワークによるプレゼンテーション力を試験し、以下の3点から評価する:①内容が創意工夫されてまとめ上げられている、②グループの意見が論理的に述べられている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
発表内容(態度含む)		20%	レポート発表は、以下の3点から評価する:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他			上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[知財戦略マネジメント論 2013年度版]”を活用する。			
履修上の心得・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			